

「神の言で生きる」

イザヤ書 第7章 10節～17節  
マタイによる福音書 第4章 4節

説教 岡村 恒牧師

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである。」(マタイによる福音書4章4節)2012年、大阪教会ではこの聖書の言葉を1年間繰り返し味わいたいと思います。この前半部分は、物質的な物が大事なのではない、精神的な事こそ人間の生を意味付け価値あるものにすると言う様に、いたる所で誤用されてきた言葉です。

昨年、地震が起こった時、どうしてパン(食料)を届けるかと言う事を多くの人が真剣に考えました。人は確かにパンで生きるのです。主イエスはその事をよくご存じでしたから、いたる所で多くの人達と食事をされました。十字架にお架かりになる夜も、復活をされた時も弟子たちと一緒に食事をされました。

初めの人アダムにとっても食べ物切実な問題でした。善悪を知る木からは取って食べるな、と神に言われたのに、美味しそうで、それを食べたなら神の様になれると思わずにはいられず、その誘惑に勝てませんでした。しかしその木は人を死ぬべき存在にしています。主イエスは弟子たちにパンを裂いて与え、これはあなたが生きるようになるために裂く私の体だ。これを食べて本当の命を手にして生きればよい、と言われました。アダムが食べて死ぬ事になった食物を凌駕する生命の食物を、主イエスは用意されたのです。

「見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。」(イザヤ書7章14節)神が私たちがかわらで一緒に生きて下さる。これがイザヤを通して語られた約束です。この聖書の言葉は今年の標語に深くつながっている箇所であります。

標語を考える時に年間の標語だけではなくて、日々の標語を想い浮かべたいと思います。《日々のみことば》といった書物が多数出版されています。日々の御言葉と言うと、私たちは主の祈りを思い浮かべます。ある信仰問答書は記しています。【問い】なぜ我らの日用の糧を今日もお与え下さいと祈るのですか。【答え】全ての良い物は神様から来るからです。第1に日日の必要を祈ればよい。しかしそれだけではなくて、私たちに本当になくてならぬ糧は神の言葉だと言う事をこの聖書全体が教えています。

今年の聖句を読む中で出エジプト記を思い浮

かべました。神は彼らに食物を与えて40年間養われました。朝になると霜の様なものが降り、人々はその食物をマナと呼びました。その日必要な分だけをいただいて食べて生きました。明日の分をとると腐ってしまいました。6日目だけは安息日のために2倍の量が与えられました。明日の事は心配してはならない。次の日にはまた必要が与えられる。「それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。」(マタイによる福音書 6章25節a)神が空の鳥を養う以上の仕方、あなた方を養って下さいます。

神は土のちりて人を創り、その鼻に命の息を吹き入れ、そこで人は生きる者となりました。(創世記 2章7節)人は死ぬとその肉体は土に帰ります。しかし神の命をいただいて生きた者は、やがて終わりの日、キリストと同じ栄光の姿に変えられ、神の国の食卓に着く。神の約束が確実である事を、私達は今日も、目で見、手で触れ、舌で味わい確認します。

主イエスが私たちの身代わりとなって十字架に架かり、永遠の命の約束を完成して下さった以上は、誰も私達を滅ぼす事はできません。神の言葉が地上の生涯を支え、地上の旅を終えた時の眠りを支え、終わりの日の復活の永遠の命を支えます。

一日一日神の約束に信頼し、神の与えて下さる言葉に全身全霊をかけて生きればよい。終わりの日、神の言葉が真実である事を味わい知ることになるからです。どんな人間の力や名譽や財産、地上の神々しい建物も全て消え去り、崩れ落ちます。しかし神の言葉は永遠に変わりません。私達は神の言葉によって生かされる存在です。

私達は元々、容易に滅ぶ、みじめな姿をしています。しかし神の言葉は、滅びや悲しみの中に私達を置き去りにはしません。この1年、神がどの様な言葉を与え、私達から命をあふれ出させて下さるか、共に楽しみにして歩みたいと思います。主の食卓を囲み、その言葉が確実である事を一緒に確認して歩み出しましょう。(記 説教要約奉仕者)